

地域包括ケアシステムの推進について

【地域包括ケアシステム構築について】

- 団塊世代が75歳以上となる2025年を目途に、**重度な要介護状態となっても住みなれた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる**よう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は穏やかだが人口は減少する町村部等、高齢化の進展状況には大きな地域差。
- 地域包括ケアシステムは、保険者である市町村や都道府県が、**地域の自主性や主体に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要**。



地域ケア包括実現のため、地域支援事業の枠組みを活用し充実・強化

「医療・介護連携」「認知症施策」「**地域ケア会議**」「生活支援」「介護予防」

【地域ケア会議の推進】

- 地域包括支援センター等において、多職種協働による個別事例の検討等を行い、地域のネットワーク構築、ケアマネジメント支援、地域課題の把握等を推進する。

地域包括支援センターレベルでの会議（地域ケア個別会議）